

2026年5月20日  
出光興産株式会社

## 固体電解質（全固体電池材料）大型パイロット装置の建設に向け、 立柱式を実施

2027～2028年の実用化を見据え、本格建設フェーズへ移行

出光興産株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：酒井則明、以下「当社」）は、千葉事業所（千葉県市原市）において、全固体リチウムイオン二次電池（以下「全固体電池」）※の材料となる 固体電解質を製造する大型パイロット装置（以下「本装置」）の建設を進めています。2026年5月13日、建設予定地で立柱式を実施しました。基礎工事が計画通り完了し、本格的に建設工事がスタートします。（完工予定時期：2027年中）

※全固体電池：従来の液系電池と異なり、固体の電解質を使用する電池。イオンが移動しやすく、電気自動車の充電時間短縮や高出力化を実現します。また、高電圧・高温に強く、エネルギー密度向上や長寿命化も期待されています。



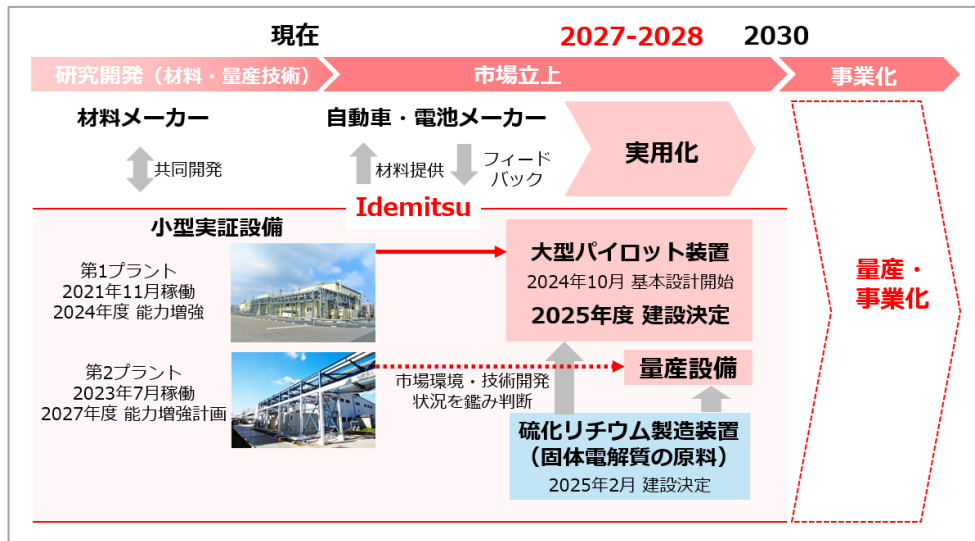
立柱式の様子



建設中の大型パイロット装置

当社はトヨタ自動車株式会社（以下「トヨタ」）と協業し、2027～2028年に全固体電池の実用化を目指しています。立柱式には、本装置の建設を担う千代田化工建設株式会社、トヨタなどの関係者が参列しました。

当社は、本装置を通じて固体電解質の性能向上および量産技術の開発をさらに加速させるとともに、原料から製品に至る一貫したサプライチェーンの構築を着実に進め、材料面から全固体電池の社会実装を支えます。



事業ロードマップ

### 【参考】

- ・当社における固体電解質の開発の位置付け

[当社の中期経営計画（2026年度～2030年度）](#)では、「成長事業の創出」の一つとして、電化・電動化／ICT 融合領域の発展のカギとなるマテリアル・ソリューションの展開を掲げています。具体的には、有機 EL 材料や次世代ディスプレイ材料、高速データ通信を実現する光電変換材料などの事業創出・拡大を進めています。なかでも、全固体電池のキーマテリアルである固体電解質は、当社の成長戦略を支える中核事業とすべく、技術開発および量産化に向けた取り組みを推進しています。

- ・[当社が手掛ける固体電解質](#)

原料には、石油製品の製造過程で副次的に発生する硫黄成分を使用しています。当社は、硫黄成分の有用性を 1990 年代半ばにいち早く見出し、長年にわたり培ってきた技術力によって、固体電解質の開発に成功しました。

- ・固体電解質の量産化へ向けた技術開発

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「グリーンイノベーション基金事業／次世代蓄電池・次世代モーターの開発」の一つとして採択されています。

- ・[社員インタビュー（リチウム電池材料部）](#)

全固体電池のキーマテリアル「固体電解質」。まだ世の中に存在しない「材料」の開発と量産に挑むリチウム電池材料部の担当者へのインタビューです。

・プレスリリース：[固体電解質（全固体電池材料）大型パイロット装置の最終投資決定  
および建設開始について（2026年1月29日）](#)

～ 本件に関するお問い合わせ先 ～

出光興産株式会社 広報部広報課

[https://www.idemitsu.com/jp/contact/newsrelease\\_flow/index.html](https://www.idemitsu.com/jp/contact/newsrelease_flow/index.html)